



文部科学省

WWLコンソーシアム構築支援事業

山梨から世界を変えていく人材の育成に向けて
～SDGsを視野に入れた探究の取組み～



山梨県立甲府第一高等学校

令和6年度連絡協議会

2024年 6月28日



探究科マスコット
とびらん

内容

- ①本校の紹介・探究活動の取組、事業
- ②学校設定科目「グローバル探究」の取組
(コンソーシアムを通じて研究開発したカリキュラム等の成果)
- ③国境を越えたプログラムの実践
- ④研究成果(コンソーシアム構築における成果)
- ⑤今後の展望(事業終了後の取組、自走の方向性)

①本校の紹介・探究活動の取組、事業

・山梨県立甲府第一高等学校

県下一の伝統校であり、県内唯一の探究科を持つ高校として、世界的な視野で考え、地域に貢献する人材や日本をリードする人材を育成し自ら考え行動する自主自立の精神を育みながら学習にも部活動にも励む文武両道を実践していく生徒が集う学校を目指している。伝統行事である強行遠足は今年で96回を迎える。

校是:「Boys be Ambitious」「苟日新 日日新 又日新」「贊天地之化育」

・平成26年度～30年度(5年間)

文部科学省SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定

・平成28年度

本校の専門教育学科「探究科」が英語科から改編され2学級設置される。
現1年生は9期生となる。6期生までが卒業して各方面で活躍している。

・令和元年度(1年間)

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」アソシエイト

・令和2年度～4年度(3年間)

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」

・令和5年度～7年度(3年間)

文部科学省「WWLコンソーシアム構築支援事業」拠点校

WWLコンソーシアム構築支援事業の目標

▶キャッチコピー(目標)

「山梨から世界を変えていく人材」の育成

- ・ 常に問題意識を持ち多様な人々と新たな価値を共創する人材
- ・ グローバルな視野を持ち持続可能な社会づくりを牽引する人材
- ・ 具体的な提案や活動により「やまなし創世」に貢献する人材

▶事業目標

「やまなし創世」に資するALネットワークの構築

▶探究活動を通じて

課題発見力, 論理的思考力, 創造力 コミュニケーション力, 発信力
などを育成

「やまなし創世」に資するALネットワーク DOOR 一扉を開いて R6.5



ALネットワーク

(アドバンスド・ラーニング)



山梨から世界を変えていく人材

- ・常に問題意識を持ち多様な人々と新たな価値を共創する人材
- ・グローバルな視野を持ち持続可能な社会づくりを牽引する人材
- ・具体的な提案や活動により「やまなし創世」に貢献する人材

中長期目標

やまなし創世ネットワーク創設
国境を越えた合同カリキュラムの実施
高校生国際会議の定期開催と海外実施
個別最適化した高度な学びのシステム構築

令和7年度

- ・ALネットワークの拡大
国内連携校8校以上、海外連携校5校以上
- ・多様な合同プログラムの実施
海外連携校との合同カリキュラムの実施に向けて
海外長期留学生の年間6名以上の受け入れ
- ・高校生国際会議の開催
グローバルな視点と英語で議論する力の向上
- ・探究深化(学校設定科目)の開設
個々のニーズに応じた高度な学びの履修システム構築

ALネットワークの構築・整備

- ・探究活動のデータベース化(これまでの実績・ノウハウの共有)
- ・連携校専用サイトによる情報共有(令和5年度開設)
- ・教員研修会の実施(年1回以上の実施)

国境を超えたプログラム(拠点校)

- ・海外研修・短長期留学の再開
- ・海外連携校との合同プログラムの実施
- ・県内在住の大学留学生と英語で学ぶ授業・探究活動の実施

高校生国際会議開催に向けた準備(拠点校)

- ・先進校への視察、生徒実行委員会の設置
- ・令和6年度 ALネットワーク内での高校生国際会議の開催

高度な学びの提供(拠点校)

- ・JMOOC等のオンライン講座の活用(令和5年度より土曜学習会で開始)
- ・大学教育の先取り履修等の活用
(山梨県立大学[PENTAS]の講座を活用した先取り履修の促進)
- ・大学協働機関からの高度な学びの提供
(山梨大学・山梨県立大学[SPARC]、山形大学[SEPS]と連携)
- ・アントレプレナーシッププログラムの活用
(山梨県立大学[PENTAS]・山形大学[i-HOPE]との連携)

拠点校の実績

SGH校 県内唯一の探究科
地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)
・「グローバル探究」の開発研究(9年間)
・産学官民のコンソーシアムの構築
・ブランドサミットの実施「探究科2年生は英語成果発表」

課題

- ・教員間での目的やノウハウの共有
- ・探究を深化させる高度な学びの提供
- ・コロナ禍で国際交流の機会の減少
- ・英語で議論する力の育成

アップデート

- ・探究顧問研修会の実施
- ・大学教育の先取り履修とJMOOC等のオンライン講座の活用
- ・海外研修の再開、県内在住の大学留学生との合同授業の実施
- ・高校生国際会議の開催、海外連携校との合同プログラム実施

②学校設定科目「グローバル探究」の取組について

▶社会課題の設定

上位課題（世界レベルの課題）



探究上位課題にはSDG sを設定し、探究が社会貢献に寄与できることで自尊の念を育てます。

中位課題（日本／山梨レベルの課題）

下位課題（地域／個人レベルの課題）

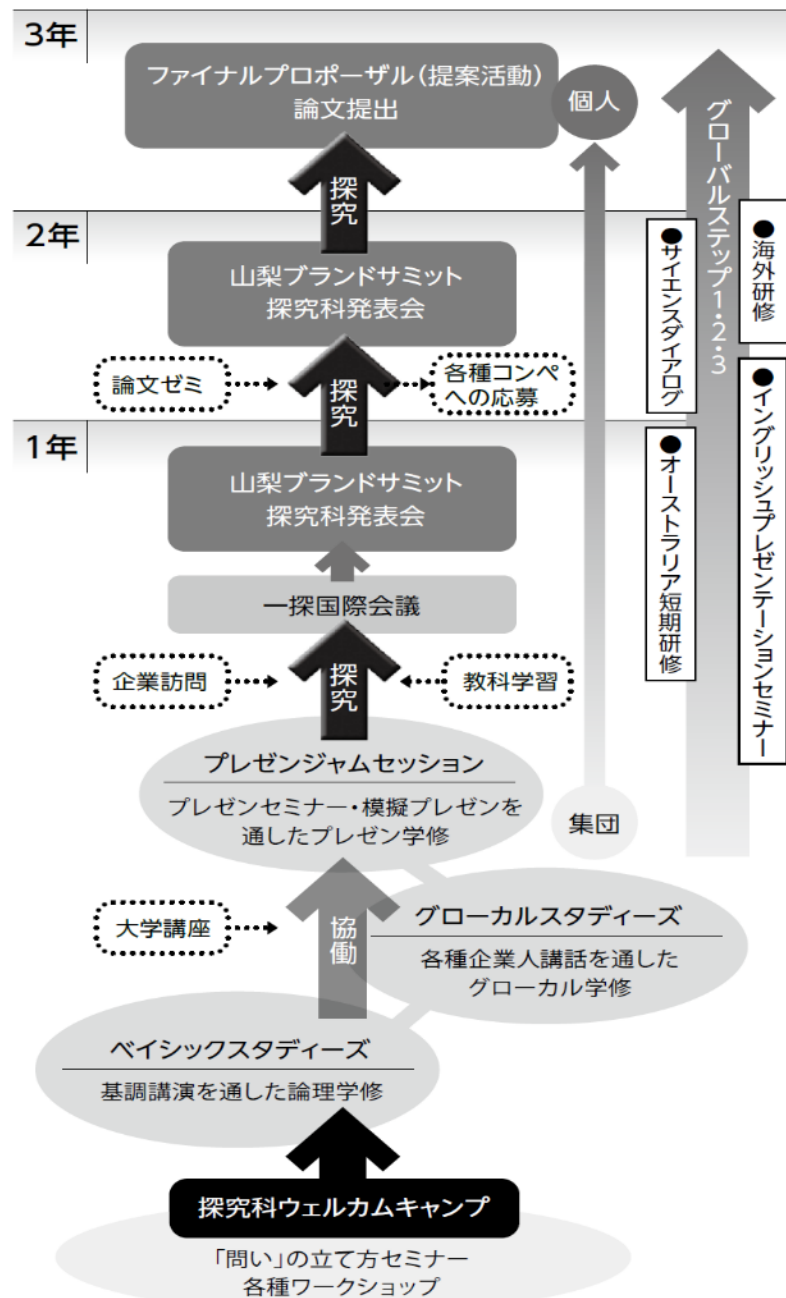
下位課題を解決するための「問い」

この【問い】
を重視

学校設定科目「グローバル探究」 活動の骨格

- 1年次** 前期のテーマは「農」、一通りのインプット、アウトプットを通して探究のノウハウを習得。
後期からは各探究班に分かれて「農」から派生した任意のテーマを設定し、主体的な活動に移行する。ポスターとPPTで成果をまとめる。
- 2年次** 原則1年次の班で本格的な探究スタート。
実地調査(校外取材活動)、コンテストへの応募は必須。
後期からは探究内容を英語でまとめ、研修旅行先(台湾)で現地高校生にプレゼンするとともに、PPTにて成果をまとめる。
(英語PPTプレゼンテーション)
- 3年次** 論文(探究成果報告書)とポスターを作成するとともに、提案活動(ファイナルプロポーザル)にて探究活動を締めくくる。
- ・各探究班には、探究顧問を配置。また2年生には英語顧問(本校英語教諭・県下ALT)も配置。
 - ・学年間の交流、主体的な活動を育むために学年バディー制を導入。
 - ・各年度末には「山梨ブランドサミット」(全校行事)という成果発表会を開催し、成果を校内外に発信する。

グローバル探究3年間の学びの概念図



3年次は、2年次の探究内容をさらに深め、ポスターと論文にまとめるとともに、社会に向けて提案していきます。なお、成果を個に還元し自身のキャリアに活かしていきます。

2年次では、各グループで社会課題を設定し、解決のための実践的なプランニングに臨みます。実地調査をもとに調査探究し、その成果をブランドサミットでプレゼンソフトを用い英語で発表します。また、各種コンペに積極的にチャレンジしていきます。

1年次では、探究科ウェルカムキャンプにて基本的な探究の心構えを習得し、ベイシックスタディーズ、グローバルスタディーズ、プレゼンジャムセッションの3つのステージを踏まえながら一通りの学習(グループ学習)をしていきます。そしてその成果をブランドサミットでポスター発表します。

なお、前期は「農」を題材に学んでいきます。

【ベシックスタディーズ】

基調講演の前後で調査・探究を重ね論理的な思考力を養うとともに成果を壁新聞にまとめます。

【グローバルスタディーズ】

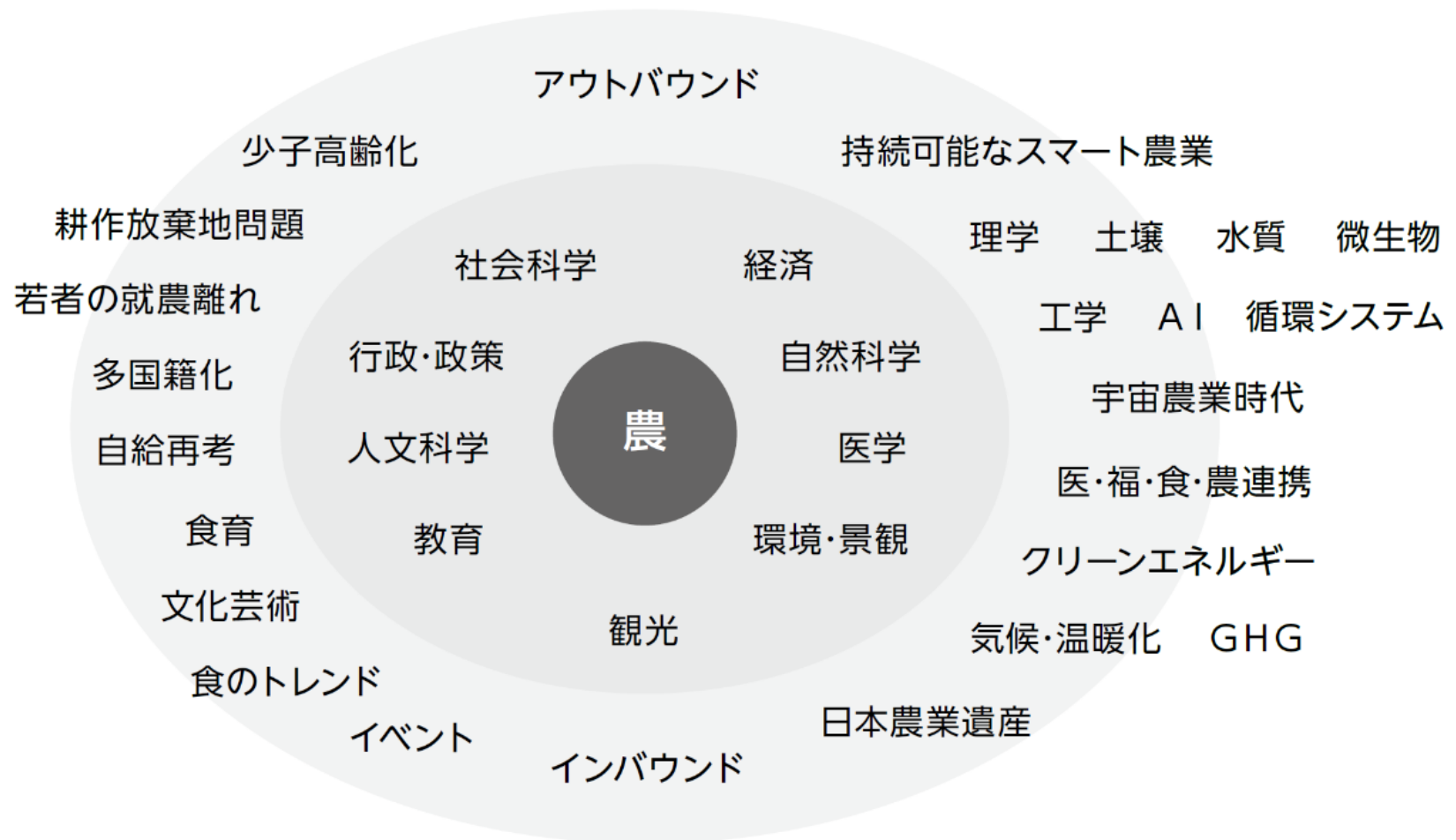
各企業人のグローバル講話をベースに、課題発見から解決に至るプロセスをともに考え、世界の視点に結びつけていきます。また、国連で採択された「SDGs」に着目し、世界の課題を探究していきます。

【プレゼンジャムセッション】

SDGsを意識しながら任意の課題を設定し、グループ毎の探究がスタートします。



「農」を取り巻くプランの検索マップ（一例）



1年次の主なコンテンツ

(前期)

- ・ ウェルカムキャンプ・・・「問いのたて方」「探究方法」「NIE」講座
- ・ 各種講演・講座（+ディスカッション）
農林水産省基調講演、「農」シンポジウム、
グローバルリーダー育成セミナー、
県政策講座、SDG s 基調講演、グローバルセミナー、
取材論、プレゼンセミナー等
- ・ 「農」壁新聞発表会等各種プレゼンテーション
- ・ 県内外の企業訪問（年2回）
- ・ 一探国際会議（高校生国際会議）
- ・ サイエンスダイアログ
- ・ 国際競争力スキルアップ講座（中国語講座）（希望者）



(後期)

- ・ グループに分かれて探究活動開始
- ・ 実地調査、インタビュー活動（必須）
- ・ 校内ブランドサミット
- ・ 企業人（コンソーシアム）大学教授によるブラッシュアップ（SPARC事業）
- ・ 県内在住の大学留学生との合同授業
- ・ 山梨ブランドサミット



2年次の主なコンテンツ

- ・SDG s を視野にグループで調査、探究（プランニング）
- ・実地調査・取材活動（コンソーシアムと協働）
- ・コンテスト等への応募（必須）
- ・「農」シンポジウム
- ・一探国際会議（高校生国際会議）
- ・サイエンスダイアログ
- ・国際競争力スキルアップ講座（中国語講座）（希望者）
- ・イングリッシュプレゼンテーションセミナー
- ・オーストラリア・ヘンリー高校との合同授業
- ・台湾研修
- ・校内ブランドサミット
- ・山梨ブランドサミット



3年次の主なコンテンツ

- ・プランを深化させ、探究成果をまとめる
- ・自治体・企業等への提案活動（イベントの開催）
- ・探究成果報告書（論文）、ポスターの作成
- ・山梨ブランドサミット（希望者）



コンソーシアム学修の主なコンテンツ

WWLコンソーシアム構築支援事業の拠点校として、大学、企業、NPO法人等の協働機関と連携し生徒のニーズに応じた高度な学びを提供。

◆大学が主催する講義・講演への参加

(1)山梨県立大学の科目履修

山梨県立大学で開講する科目のうち一部の科目を高校に在学する生徒も履修できる仕組み。前期(5月入学)と後期(10月入学)の募集があり、一科目2回～8回程度、1単位～2単位の修得となり、18科目程度開講。

(2)山梨県立大学国際政策学部新コース導入記念高校生向けセミナー

山梨県立大学国際政策学部は、文理融合型の「創発デザインコース」を導入。その記念行事として大学の教員と在校生が新しい学びのカタチを高校生に提案するセミナー

(3)山形大学SEPS (Super Engineer Programming School)

山形大学主催で、シリコンバレーのエンジニアから指導を受け、自分たちのアイデアを実現する教育プログラム。

東北地域限定の講座であるが甲府第一高生に限り特別に受講できる。

◆学校が指定したオンライン講座(JMOOC等)を自宅で受講

JMOOCとは、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会の略称。

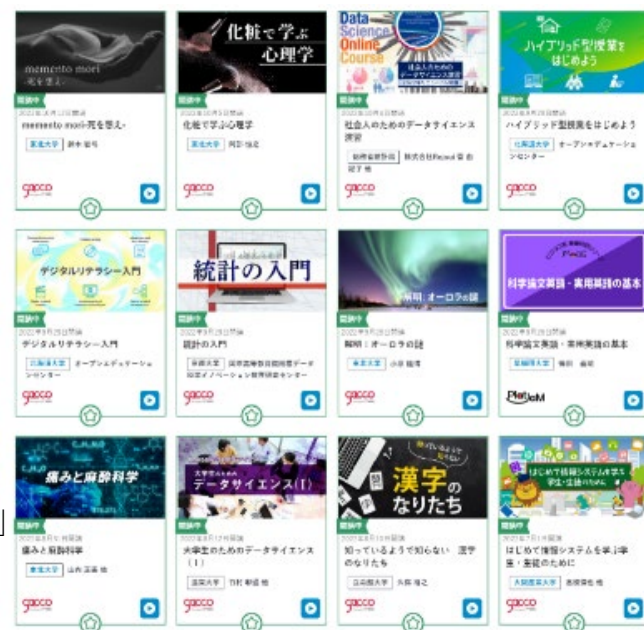
2012年より米国で始まった無償教育サービス複数の講座配信プラットフォームをまとめるポータルサイト。大学講師陣および企業が提供する本格的なオンライン講義を誰もが無料で受講できる。

◆PENTASとの連携

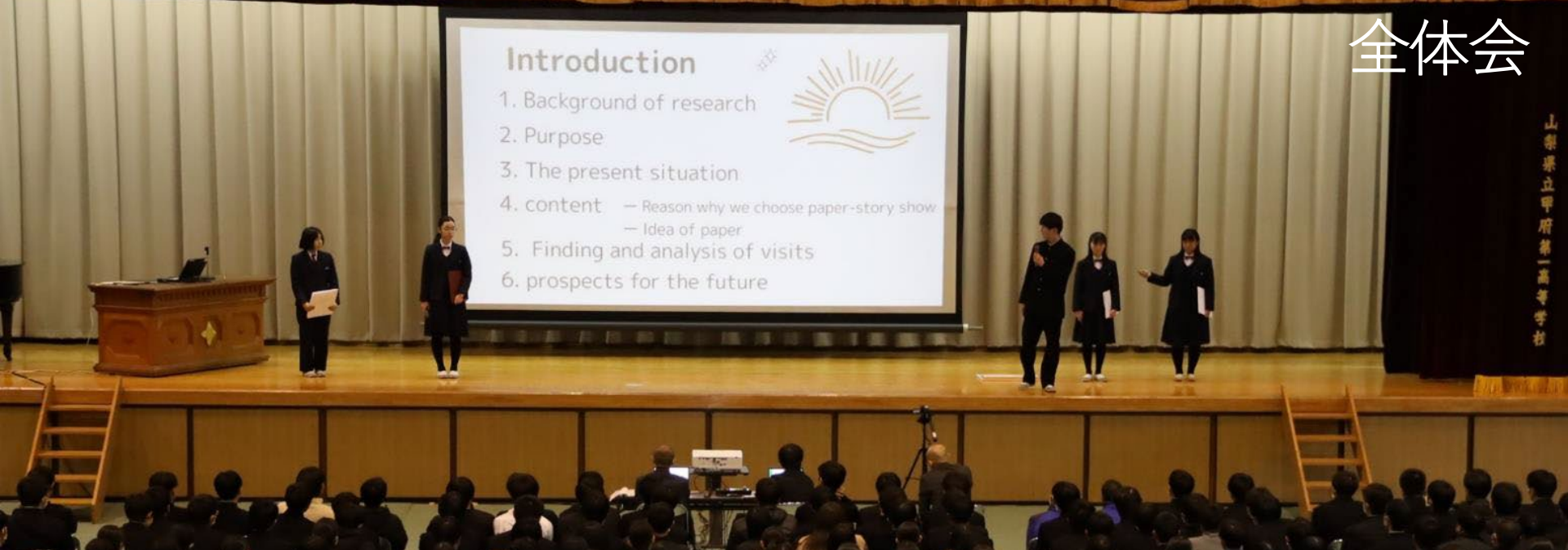
大学コンソーシアムやまなしが提供する学生と社会人の垣根を超えた地方創生人材の育成を図る実践的教育プログラム。県立大が開講する科目もこれに含まれる。

◆SPARCとの連携

大学等が地域の中核として機能していく「地域活性化人材育成事業～SPARC～」の一環で、大学講師陣による週例の探究相談会が県立やまなし地域づくり交流センターで開催されている。この機会を積極的に活用し、探究を深化させることができる。



全体会



- ## Introduction
1. Background of research
 2. Purpose
 3. The present situation
 4. content
 - Reason why we choose paper-story show
 - Idea of paper
 5. Finding and analysis of visits
 6. prospects for the future



山梨県立甲府第一高等学校

分科会



探究成果発表会「山梨ブランドサミット」

探究手引書「グローバルパスポート」の開発

探究の概念、探究の進め方をはじめ、検索方法、名刺交換の仕方、評価ルーブリックなどを掲載



③国境を越えた プログラムの実践

台湾研修旅行（12月）▶

台湾の和平高校での本校生徒の英語によるプレゼンテーション。

ディスカッションを通じて国際的な視野を涵養する。

なお、和平高校はR6年度本校を訪れ、さらなる交流を図った。



◀台湾販売実習（9月）

県立笛吹高校（連携校）で栽培したシャインマスカットを台湾のデパートで販売。本校参加7名は中国語（台湾語）を学習し、現地で本県の魅力をアピールした。





◀県内在住の大学留学生 との合同授業 (2月3日、10日／1年生対象に週休日に実施)

山梨大学、山梨学院大学より40名ほどの留学生を招聘し、国際関係（観光）をテーマに講義を受け、その後ディスカッションを行った。R6年度は、3回実施予定。



オーストラリア・ヘンリー高校との合同授業▶

(2月オンライン／2年生総合英語Ⅱの授業内で実施)

山梨県立大学、山梨学院大学各教授の専門領域の授業を4回受講し、その内の2回をオーストラリア・ヘンリー高校と合同実施。持続可能な社会をテーマに本校生徒が発表し、ヘンリー高校教員、生徒からのフィードバックを受けた。R6年度は4校の海外連携校と併せて10回の交流を通してさらなる拡充を図る。

高校生 国際会議

一探 国際会議

山梨で

グローバルサウス

語ろう！

山梨県立甲府第一高等学校

「基調講演」

畠山重篤 先生

「NPO法人森は海の恋人」理事長

京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授

人権・環境・貧困

戦争・外交

2023.9.23(sat)



R5年度テーマ「山梨でグローバルサウスを語ろう」

基調講演講師：畠山重篤氏（NPO法人森は海の恋人理事長）

分科会：人権・環境・貧困・戦争・外交



R6年度は、10月23日に実施。本校の原点に帰り「農」をテーマに生徒実行委員会（各学年5名）を中心に現在主体的に構想を練っている。

基調講演講師は雨宮清氏（株式会社日建代表取締役会長）。国内、国外の連携校も交えて実施。

④研究成果（コンソーシアム構築における成果）

コンソーシアムによる高度な学びの提供や、コンソーシアムや任意団体との協働事業例

14 海の豊かさを
守ろう



12 つくる責任
つかう責任



3年12班（プラガール）の取組

「プラスチック問題解決に向けたマイボトルの普及」

山梨県内の総合情報サイトPORTA（ポルタ）と協働してマイボトルの開発



PORTAとの共同開発に向けた話し合いと完成したオリジナルマイボトル



3年6班の取組

山梨県北部に残る信仰の道「御嶽古道」について～
コンソーシアムである県立大学とのコラボレーション



山梨県立大学国際政策学部において
大学生に向けて講義を行う

なお、この班は地
元の小学校3校に
出前授業を実施。
4年生を対象に講
義をし、郷土資源
保護の重要性を伝
えた。



棚田班の取組 (4期継承事業)

棚田資源と商品開発を通じ、原風景の保全、地産 地消、フードロスなど様々な社会課題に取り組む。県農政部、甲斐市農林振興課、NPO法人棚田保存会、企業、大学との協働事業

棚田を知るために
「棚田のオーナー」になっています！



稲刈り

地元小学生と共に
田植祭り



収穫祭 地元で収穫した竹の器で炊飯し地産地消を推進する



開発した「棚だんご」と「神おむすび」



地元農家、県、市、NPOとの打ち合わせ

▶目標に対する成果と評価（アンケート結果より）

①年2回のアンケートより、回答者（生徒）が持っている力や意欲（16項目）中の特に「向上した」と回答した主だった項目

- ・「グローバルな視点で考える力」（37.6%）
- ・「情報やデータを分析・統合する力」（34.7%）
- ・「全員が納得できるように意見をまとめる力」（33.5%）

②コンソーシアムを通じた探究活動によって伸びた力

- ・「自分の考えをわかりやすく正確に伝える力」（81.2%）
- ・「新しいことに積極的に挑戦しようとする意欲」（79.4%）

逆に、課題項目（スケール感の大きな項目／ここを伸ばすのが課題）

- ・「持続可能な社会をつくろうとする意欲」（34.1%）
- ・「山梨のために貢献しようとする意欲」（26.5%）

③海外との交流事業も再開し、交流を通して得られた成果（8割を超えた項目）

- ・「新しい価値観や視野」、「発想の着眼点や視野」、「日本文化や日本社会の特性」、「英語によるコミュニケーションの力」、「英語によるディスカッションの力」、「英語によるプレゼンテーションの力」、「英語学習の意義」

⑤今後の展望（事業終了後の取組、自走の方向性）

課題

- ・ 探究を深化させる高度な学びの提供
- ・ 国際交流の機会の減少
- ・ 英語で議論する力の育成
- ・ 教員間での目的やノウハウの共有
- ・ 管理機関と拠点校の連携体制の強化

中長期目標

- ・ 個別最適化した高度な学びの提供
- ・ 国境を越えた探究の実践と普及
- ・ 高校生国際会議の拡充
- ・ やまなし創世ネットワークの創設
- ・ 本事業の連携校への普及

具体的な取組

- ・ 従前のコンソーシアム・連携校との連携の継続構築による探究の深化
- ・ 国内外の連携校拡大と高校生国際会議の充実化
- ・ SPARC【山梨大学、山梨県立大学】との連携／オンライン講座の活用
- ・ PENTAS【山梨県立大学】との連携（アントレプレナーシッププログラムの導入）
- ・ SDG s を共通テーマにした課題研究（SDG s の認識の在り方）
- ・ 探究そのものの探究（探究の在り方の研究）
- ・ 探究活動のデータベース化（これまでの実績・ノウハウの共有）
- ・ 探究科での探究の実績を普通科や他校へ展開、普及

**山梨から世界を変えていく人材の育成
（イノベーターなグローバル人材の育成）**